

大牟田市立駛馬北小学校

1 本校のESDの特徴

本校校区は東側に世界文化遺産「宮原坑」「三池炭鉱専用鉄道敷跡」があり、鶯替え祭りで知られる駛馬天満宮がある。また、南側には諏訪川が流れている。このように、歴史や文化、自然環境を体験的に学習することができる、学習環境に恵まれた地域である。本校ではこれらの学習環境を生かし、環境や文化、石炭産業に関する歴史を学習対象としたESDを展開している。

特に、平成25年度から総合的な学習の時間の一環として取り組み始めた「子どもボランティアガイド」¹⁾では、活動を通して子どもの郷土愛や社会貢献の自覚、自尊感情、コミュニケーション能力が高まるなど、プログラムとして大きな成果をあげている。



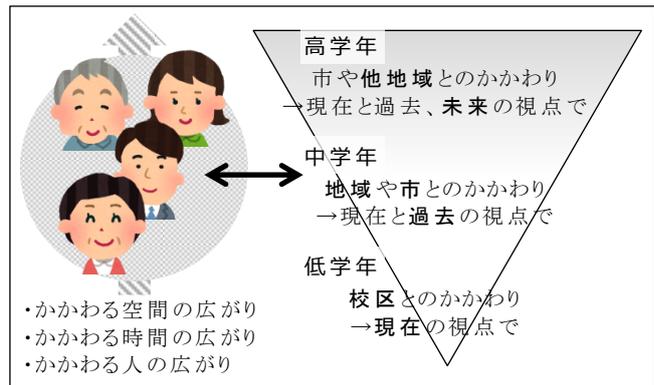
1) 子どもボランティアガイド

宮原坑を中心とする世界文化遺産について調べたことを基にガイド原稿をつくり、実際に見学に来られた方にガイドするプログラム。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校はユネスコスクールとして「かかわり」を大切にしている。これは、ESDのテーマである「つながり」に繋がるものである。

主に総合的な学習の時間と生活科において学習を展開する(図1)。低学年は身近な校区とそこにかかわる人を現在の視点で学習する。中学年は、地域や大牟田市とそこにかかわる人を現在から過去を考えながら学習する。高学年は、大牟田市や他地域とそこにかかわる人を、過去から現在、そして未来の視点を考えながら学習する。このように、学習対象を空間的に広げ、見方や考え方を時間的に広げ、それに伴ってかかわる人々を広げながら学習していく。



(図1) 本校の活動と空間、時間、人のかかわりの広がり

例えば、1)で挙げた子どもボランティアガイドは、三つの対象が系統的に高まった状態での活動である。宮原坑など大牟田の世界文化遺産と、同じ構成遺産である三菱長崎造船所や八幡製鉄所を比較検討し、宮原坑の価値理解を深めている(空間的な広がり)。また、石炭産業にかかわった人々の思いや願いを知り、石炭の歴史や文化を継承する一員として自分にできることを考え、ガイドに取り組んでいる(時間的な広がり)。さらに、三池炭鉱で働いていた方や歴史を伝える活動に取り組んでいらっしゃる方と意見交換するなど、人とのかかわりを広げている(人の広がり)。

例えば、1)で挙げた子どもボランティアガイドは、三つの対象が系統的に高まった状態での活動である。宮原坑など大牟田の世界文化遺産と、同じ構成遺産である三菱長崎造船所や八幡製鉄所を比較検討し、宮原坑の価値理解を深めている(空間的な広がり)。また、石炭産業にかかわった人々の思いや願いを知り、石炭の歴史や文化を継承する一員として自分にできることを考え、ガイドに取り組んでいる(時間的な広がり)。さらに、三池炭鉱で働いていた方や歴史を伝える活動に取り組んでいらっしゃる方と意見交換するなど、人とのかかわりを広げている(人の広がり)。

活動の広がりとして、子どもボランティアガイドについて、今後は熊本県荒尾市や佐賀県佐賀市の小学校と、活動の紹介やガイドについての意見交換を計画している。

3 特徴的な活動事例

(1) 単元名 「提案しよう！宮原坑保存計画！」

(2) ねらい

「石炭産業の様子やそれに伴う当時の雰囲気の後世に伝える」という世界遺産の意義を理解し、未来を見据えて、当時の様子や雰囲気を残しつつ現在の課題に対応する方法を考え、石炭産業の歴史を未来に伝えていくための一員としての態度を養う。

(3) 学習展開

a) 導入

世界遺産登録から一年が過ぎ、少しずつ宮原坑の見学者が減っている事実から、「見学者が楽しめる施設を考えて大牟田市に提案しよう」という課題をつくった。

b) 展開

まず、見学に来られた方にどんな施設があったらいいかインタビューしたり、他地域の世界遺産の事例を調べたりした。

次に、調べたことを基に、宮原坑の近くに作る施設のプランを作った。そして、そのプランを石炭産業科学館の中野さんに見てもらい、アドバイスをもらった（写真1）

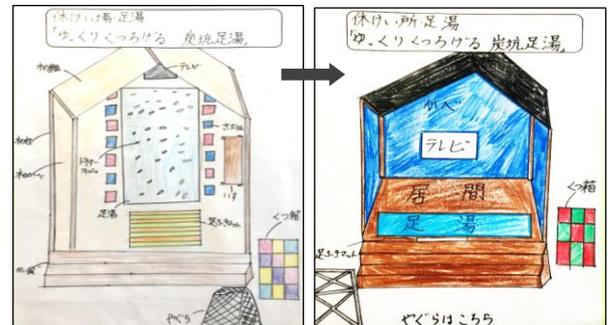


（写真1）自分たちが作ったプランの提案

中野さんからは「見学者が来ればいいわけではない。何のために見学に来られているか考えるべきだ」と指摘していただいた。そこで、子どもたちはプランを見直し、「宮原坑の魅力を伝える」要素が欠けていることに気付いた。

そこで、「宮原坑の魅力も伝えていくプランにする」という新たな課題を設定し、自分たちが作ったプランを修正した。

例えば、足湯のプランを作っていたグループのものは、修正前は観光客の方々が向き合って座る作りになっていたが、修正後は宮原坑を眺めて座るアイデアになっている（図2）。



（図2）修正前と修正後の施設プラン

このように、「観光客を呼びたい」という切実な願いと、宮原坑の歴史や雰囲気を伝えることが大事だという考え方を取り入れた、子どもなりの折衷案が作られた。

c) 終末

各グループが作成した施設案は、今後大牟田市に提案する予定である。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・前年度までのESDの取組を踏襲し、着実に成果を積み上げることができた。
- ・特にボランティアガイドについては、伝統として根付いてきている。

○課題

- ・「提案しよう！宮原坑保存計画」単元の人とのかかわりをより広げる。